輪島市立鳳至小学校　第５学年１組　国語科学習指導案

Ｈ２８．１１．２２

１　単元名　　「ショーウインドウ」で伝えよう　椋鳩十ワールドのみりょく
「大造じいさんとガン」

２　単元の目標

・優れた表現に注目して、物語の魅力を紹介する文章を書こうとする。　【国語への関心・意欲・態度】

・自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすることができる。　【読むことア】

・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。　【読むことエ】

・文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。　【読むことオ】

・語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつことができる。　【伝国イ（カ）】

３　指導にあたって

（１）教材観

・言語活動　　高学年の読むことの指導事項「エ　登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめる」を取り上げ指導する。そこで、人物相互の関係や中心人物の心情の変化、情景描写、心に残る場面を視点にした『本のショーウインドウ』を作成し、紹介する。

人物の心情の変化 ぬすっとぎつねだと思っていた兵十が、栗やマツタケをくれたことを知り撃ったことを後悔する。 **みりょくてきな表現** **青いけむりがまだつつ口から細く出ていました。**ごんの気持ちに気づいてやれなかった兵十の後悔が表れている。	**グッと心に残る場面** 兵十にうたれたごんが目をつぶったままうなずく場面。 **理由**　気づいてもらえなかったごんと兵十が気持ちを通わすことができたから。 **おすすメッセージ** 気持ちを通わすことの難しさや通ったときのよろこびを感じることができる作品だ。	**ごんぎつね　　新美南吉** **あらすじ** いたずらぎつねのごんが兵十の母の死をきっかけに、兵十につぐないをするが撃たれてしまう話。

本単元では、中学年の「ウ　場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」を受けて、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることを設定する。教材文「大造じいさんとガン」は狩人「大造じいさん」と獲物「残雪」の関係を軸に進行する。登場人物の設定、時間の経過、場所の設定などがつかみやすく、話の展開がわかりやすい。会話文や地の文の中に大造じいさんの気持ちを直接表現している言葉が多くみられる。また、豊かな情景描写を通して大造じいさんの気持ちを暗示している表現もみられる。このような工夫は中心人物の気持ちの変化を読み取ったり、直接文章に表現されていない内面にある心情を、想像を広げながら読み取ったりするのに適した教材である。

（２）児童観

本単元の指導にあたり行った「国語に関するアンケート」では、「自分の考えの根拠をわかりやすく友達に伝えることができる。」項目で５０％の回答であった。根拠を抜き出すことはできるが、その理由付けとなるとうまく言い表すことのできる児童は少ない。

４月に「なまえつけてよ」の学習で登場人物の関係の深まりや心情の変化を読む学習をしてきた。関係を変えるきっかけとなった出来事を読み取るために、考える根拠となる対人物の行動や会話を見つけ、心情を読み進めた。考えを発表した後には、友達の考えを聞いて深まったことを振り返りに書いたり、自分の考えに生かそうとしたりしていた。しかし、行動や会話などの叙述を手がかりに心情を想像し、自分の言葉で表現しようとする児童は限られている。多くは、語彙が少ないため、内容をしっかり読み取れなかったり、自分の言葉で表現することを苦手と感じたりしている。

本学級の児童は、読書の好きな児童が多い。しかし、ノンフィクション作品や学習漫画、歴史漫画を好んで読む傾向にあり、長編物語をじっくり読んでいる児童は少ない。そこで、優れた表現を学習し、その良さに気づくことで、読書の幅も広げていきたい。

（３）指導観

本単元では「読むことエ」の目的に応じて、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることを指導の重点としている。そのために、単元を貫く言語活動を「『ショーウインドウ』で伝えよう　椋鳩十ワールドのみりょく」とし、推薦の文章を書くことを位置付けた。

一次では、「千年の釘にいどむ」の学習で人物像をもとにキャッチコピー・ポップを作成した経験をふりかえりながら、単元全体の学習が見通せるようにし、モデル作品をもとにゴールの姿を具体的にイメージさせ、主体的に読もうとする意欲を高められるようにしたい。単元計画を立てる時には相手意識（全校児童）と目的意識（物語の魅力を知ってもらう）をもたせ、どのような視点で読んでいけばいいか考えさせたい。

二次では、毎時間、教材文で「ショーウインドウ」のパーツを作っていく。パーツとなる心に残った場面や登場人物の相互関係の変化を明らかにする際にはグループで自分の考えを紹介し合う場を設ける。友達との交流において、共通点や相違点を確かめながら聞くことで、自分の考えを明確にするという目的意識をもつことができるだろう。残雪の行動によって大造じいさんの気持ちが変わっていく様子を図式化して物語の全体像を視覚的にとらえられるようにする。物語の山場では、大造じいさんの残雪に対する見方が変わった理由について、叙述をもとに根拠を明らかにして読み進めたい。また、情景描写に暗示された大造じいさんの心情についても考えていきたい。

三次では、児童が選んだ椋鳩十の作品についての本の「ショーウインドウ」を作って交流する。心に残った場面や優れた表現を紹介したり、別の作品を読んだりする活動を通して、物語の魅力に気づけるようにしたい。また、自分の推薦が友達の選書に役立ったことを実感させ、読みの意欲をさらに高めていきたい。

(研究テーマとの関わり)

【仮説２】との関わり

本時では、大造じいさんの心情が変化した理由を読み取るための視点を、『残雪の行動に着目する』とし大切として提示する。そして、根拠となる叙述をもとに、なぜ、そう考えたのかを自分なりの言葉で表現することを意識して書かせたい。その際、「自分だったら…」と自分の経験と比べながら考えられるように助言したい。深める段階では、大造じいさんが心を動かされたものは何かを問うことで大造じいさんの内面にある心情をとらえさせる。「ただの鳥に対している気がしない」という表現に注目し、残雪がただの鳥でないということは、大造じいさんにとってどんな存在となったのかと問い返すことで、鳥や人間というくくりではなく、自分と同等のライバルとして残雪を認めた気持ちに気づかせたい。

４　指導計画と評価規準（総時間８時間）

次	時	狙い	主な学習活動	評価規準	評価の観点				
					関	言	書	読	伝
一次	1	物語文の魅力を見つけようという学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。	・教師の示した『ショーウインドウ』のモデルにより「優れた表現に注目して、語の魅力を紹介する文章を書く」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・教師の範読を聞き、物語の魅力や印象に残った表現をノートに書く。	・優れた表現に注目して、物語の魅力を紹介する文章を書こうとしている。(行動観察・ノート) ・物語を読んで、印象に残った表現を書いている。　（ノート）	○			○エ	
	2	「大造じいさんとガン」の全文を通読して、内容の大体をとらえる。	・全文を読んで物語の設定やあらすじをとらえる。	・物語の設定やあらすじなど物語の大まかな内容についてとらえている。(発言・ワークシート)				○エ	
二次	3	大造じいさんの心情の変化を考える。	・登場人物の関わりによって変化する「大造じいさん」の心情を、じいさんの言葉や行動を表す叙述をもとに考え、ワークシートにまとめる。	・「大造じいさん」の心情を表す表現を捉え、自分の考えをまとめている。 (発言・ノート・ワークシート)				○エ	
	4（本時）	「大造じいさん」の考え方が大きく変化した理由を考える。	・「大造じいさん」の「残雪」に対する見方が大きく変わった場面を探し、理由とともに話し合う。	・「大造じいさん」と「残雪」の相互関係の変化を捉え、自分の考えをまとめている。 （発言・ノート）				○エ	
	5	情景や心情について考える。	・情景が効果的に描かれた部分から人物の心情を考えるとともに、印象に残った表現とその理由をまとめる。	・「情景」の意味について理解し、登場人物の心情や動き、情景を表す表現を捉え、自分の考えをまとめている。 (発言・ノート・ワークシート)				○エ	
	6	情景や心情について考えながら音読する。	・印象に残った場面について、人物の心情や場面の様子が伝わるように音読する。	・人物の心情や場面の様子が伝わるように音読している。 （発言・行動観察）				○ア	
三次	7	物語の魅力を『ショーウインドウに』まとめる。	・物語の魅力のまとめ方を確認し、自分の感じた魅力を伝えるために工夫してまとめる。	・登場人物の心情や動き、情景を表す表現を捉え、自分の考えをまとめている。　（発言・ノート） ・言葉や表現に気をつけて様子を想像している。 （ワークシート）				○エ	○イ
	8	物語の魅力について伝え合い、感想を交流している。	・物語の魅力について、友達の発表を聞き、自分と比べて感想を交流する。	・友達の発表を聞いて、感想を伝え合っている。 (行動観察・ノート)				○オ	

5　本時の学習（８時間中４時）

（1）狙い　　「残雪」に対する「大造じいさん」の考え方が大きく変化した理由について叙述をもとに考えることができる。

（2）評価規準　　「大造じいさん」と「残雪」の相互関係の変化を捉え、自分の考えをまとめている。

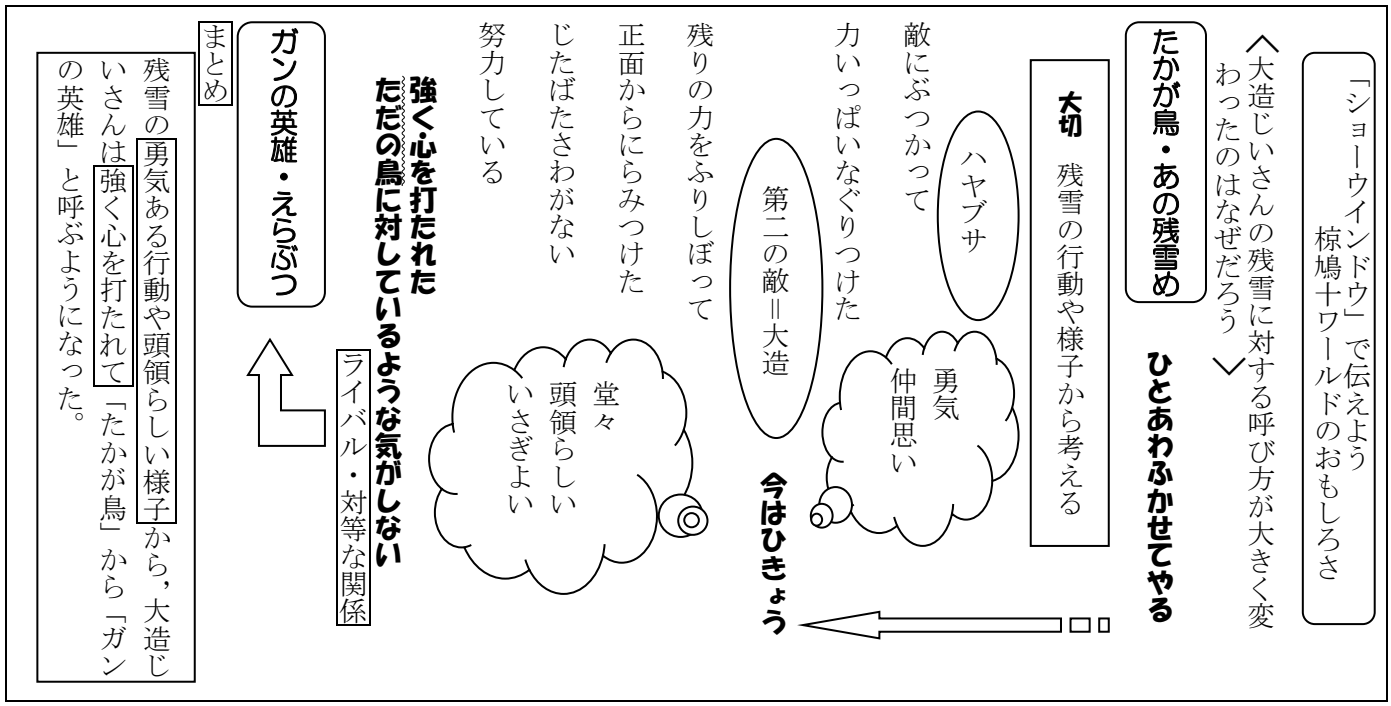
【読むことエ】

（3）準備　　全文シート

（4）展開

	学習過程（配時）	学習活動	評価（◎）支援（○）留意点（・）
つかむ	1　本時の課題をつかむ（5分）	○大造じいさんの残雪に対する呼び方はどう変化しただろう。 ・たかが鳥、残雪め ・ガンの英雄、えらぶつ 〈大造じいさんの残雪に対する呼び方が大きく変わったのはなぜだろう。〉	・呼び方の変化で気持ちが大きく変わっていることを確認し課題をつかませる。
考える	2　大造じいさんの気持ちが変化した理由を考える（10分）	○大造じいさんの気持ちを変えたきっかけを考えよう。 **大切**　残雪の行動や様子から考える ・「いきなり敵にぶつかっていきました。」 ・「大きな羽で力いっぱい相手をなぐりつけました。」 ・「残りの力をふりしぼって長い首を持ちあげました。」 ・「じいさんと正面からにらみつけました。」 ・「頭領としてのいげんを傷つけまいと努力している。」	＜教えること＞ 対人物の行動や様子に着目する。 ・根拠となる叙述をもとに、そう考えた理由を自分なりの言葉でノートに記入する。
深める	3　大造じいさんの気持ちが変化した理由について話し合う（20分）	○大造じいさんの気持ちが変化した理由について話し合おう。 ・仲間のために自分より強いハヤブサに立ち向かう残雪の勇気に感動したから。 ・自分がやられるかもしれないのに仲間を助けようとする残雪の行動がむねにひびいたから。 ・敵が近づいて来たら自分なら逃げるのに、残雪は逃げなかったので頭領らしいいさぎよさに心を打たれたから。 ・傷だらけなのに残りの力をふりしぼって大造じいさんと戦おうとする姿が立派だと感じたから。 ・自分なら捕まえられそうになったら、じたばたさわいで逃げようとするのに、格好悪いところを見せない残雪の堂々とした姿がかっこいいと感じたから。	＜考えさせること＞ 残雪の行動や様子から大造じいさんの内面にある心情を考えさせる。 ◎「大造じいさん」と「残雪」の相互関係の変化を捉え、自分の考えをまとめている。（ノート・発言） ○残雪の行動を見たときの大造じいさんの気持ちを考えるようにする。 **・「ただの鳥に対している気がしない」に注目し、残雪が鳥でなければ大造にとってどんな存在か問い返し、考えを深める。**
まとめる	4　まとめる（5分）	○学習のまとめをしよう。 残雪の勇気ある行動や頭領らしい態度に心を打たれて「たかが鳥」という気持ちから「ガンの英雄」と呼ぶようになった。	
	5　ふりかえる（5分）	○今日の学習をふりかえろう。 ・対人物の行動や様子から考えると、中心人物の心情の変化を読み取ることができることがわかった。	・大造じいさんの心情の変化についてショーウインドウに書く。

（5）めざす児童の姿

大造じいさんの残雪に対する気持ちは、残雪の仲間を思う行動や堂々とした様子を通して「たかが鳥」から「すごい鳥」というように大きく変化していることがわかる。	大造じいさんの残雪に対する気持ちの変化は、対人物である残雪の仲間を助ける勇気や敵を目の前にしても堂々としている態度など、残雪の行動を読むとわかる。

（6）板書計画